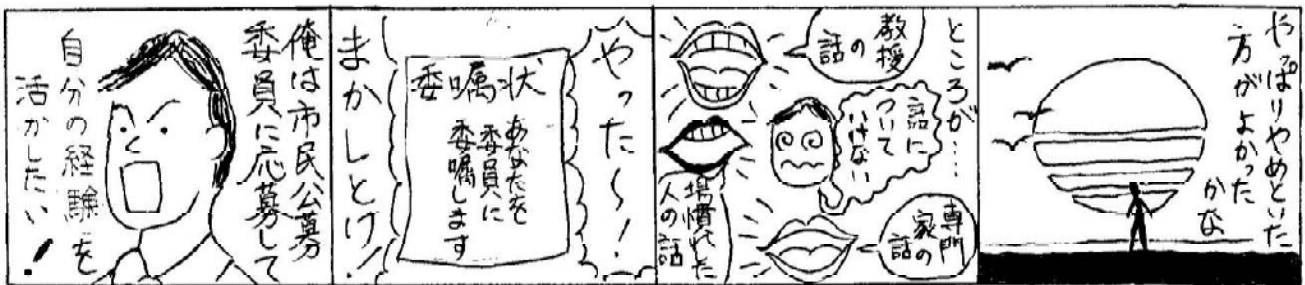


論点を整理し、課題を抽出する

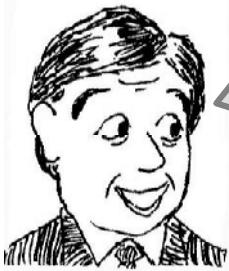
論点1 審議会と市民公募委員の関係に見る市政参加の仕組み

STEP 1

問題提起 エピソード「ある市民公募委員さんのお話」



熱意ある市民に市民参加制度は応えているのか？



「京都市市民参加推進計画」が策定され、京都市政の様々な場面で市民参加の仕組みが広がってきました。この仕組みによって、熱意ある多くの市民の皆さんが市政への参加を始めています。京都市が設置する多くの審議会や委員会には「市民公募委員」を募集し、ほとんどの会議で傍聴を呼びかけています。委員に応募し、傍聴に来られる市民の数はまだ多くありませんが、熱意をもって真剣に取り組んでくださる市民の皆さんがられます。

しかし、この皆さん方の熱意に、現在の市民参加制度が十分応えているのかという問題があります。

✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

“敷居の高い”審議会

私の参加した審議会は条例の改正を行っていたのですが、法律の専門家の大学教授や弁護士さんなどの学識経験者がずらっと並んだ状態の中にぼんと入ったもんですから緊張感がありました。また会議では法律用語が飛び交っていましたが、一生懸命聞いていても、専門家ではないので内容がわかりませんでした。【市民公募委員・円卓会議より】

審議会によってこんなに違う？

私は2つの審議会の市民公募委員をしています。一方の審議会は少人数なので自由に話ができ、有識者の方もフットワークの軽い方が多く、言いたいことも言えるし、冗談も言ったりできるんですが、もう一方は、有識者の委員の方ばかりで、意見がなかなか言えないというか、言ってもなかなか取りあってもらえないという雰囲気があります。市民公募委員に参加してもらおう意味があるのかなとも感じます。審議会によってこんなに違うのかなと本当に不思議です。【市民公募委員・円卓会議より】

せっかく市民公募委員が参加しているのに...

私は様々な審議会の傍聴をしているんですが、大抵どの審議会でも委員の方は全体で12～13名いらっしやいます。しかし、市民公募委員はそのうちでせいぜい2名、多くて3名くらいです。そういう状況のなかで、市民公募委員の方たちが気楽な気持ちで自分の本当に思っていることを自由に発言されているのかどうか。私はそのあたりを非常に疑問に思っています。【傍聴経験者・円卓会議より】

傍聴者にも配慮して！

大半の審議会が口の字に並んで話しているので、傍聴者には声が聞き取れないことがあります。傍聴者にもっと聞こえるような形でマイクを使ってもらうとか、傍聴をしやすい環境を工夫してもらいたい。もっと傍聴者が来るということを前提とした会議にして欲しいと思います。【傍聴経験者・円卓会議より】



私はこう考える！～議論の現場から～

市民公募委員の力が発揮できる機会が少ないのでは



市民公募委員は熱意にあふれ、審議会によってはかなりの応募者の中から選抜されています。それに対し、審議会でその力を十分に発揮する機会が少なすぎるように見受けられます。もったいないと思います。【不破さん】

名目だけの？市民公募委員制度の腑に落ちないところ



「市民公募委員も随分勉強しないといけない」と感じている反面、「審議会における市民公募委員とは何なのか」という疑問が頭に上り始めています。市民公募委員へのアンケート結果を見ると、市民公募委員の発言がまったくない審議会もあったし、ただ講演を聞いて帰っていくというだけの審議会もあるということでしたが、この辺りに市民公募委員制度の課題があると思います。これでは“名目だけの市民公募委員”と受け取られても致し方ないのではないのでしょうか。市民公募委員の制度そのものはいいいことですが、市民公募委員制度を続けていく以上、もう少しその辺りに目を向けるべきではないかと思います。【江田さん・第12回会議、円卓会議より】

あらゆる立場の人に配慮した実効性の高い体制に



「市民参加」と言った場合の「市民」はどんな人たちがイメージされるでしょうか。「社会的弱者」とされる人たち、障害のある人、外国籍市民、若者、小さな子どもを持つ女性などは含まれているでしょうか。審議会は参加しやすい場所・時間帯で行われているでしょうか。バリアフリーの施設でしょうか。託児サービス、手話通訳、口述筆記は手配可能でしょうか。情報は必要な相手に届いているでしょうか。「広報発表して終わり」になってはいないでしょうか。情報はわかりやすい日本語で提供され、必要であれば多言語化されているでしょうか。

「当事者」とされる人たちが、専門家の間を割って、外に向かって自らを「語れる」ようになるまでは相当な勇気と時間を要します。高いモチベーションを持って参加し、建設的な提言をしても、問題解決の筋道が見られなかったため、やる気を失くして落胆する市民公募委員の姿が、今も私の記憶に残っています。実効性の高い体制を整備することも大きな課題です。【鈴木さん】

STEP 2

議論・分析



市民公募委員を受け入れる審議会の意識改革が必要

フォーラムでは市民公募委員を中心とした自主勉強会の開催など、市民公募委員が発言しやすい環境を整える試みを行っていますが、多くの審議会では市民公募委員を受け入れる体制が整っていないのが現状です。ただ単に市民公募委員を入れるという単純な突破口を作るだけではなく、市民公募委員を受け入れる側の審議会のあり方をしっかりと考える必要があるのではないのでしょうか。せっかく市民公募委員に参画していただいても、審議会を運営する側の意識が変わらなければ、よい議論は生まれません。



ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

市民公募委員を増員して欲しい

市民参加を市が進めていくのであれば、審議会に参画できる市民公募委員の数をもっと増やすべきだと思います。もっと増やして、もっと自由な気持ちで本音がいえるような雰囲気を作り出さないと、まったく形だけの公募になってしまうような気がします。【傍聴経験者・円卓会議より】

傍聴したい審議会とは

市民参加推進フォーラムは他の審議会に比べると、すごく開かれた、活発な議論をされています。そこに可能性を感じながらいつも傍聴させていただいています。ところが、他の審議会では道筋にそって議事を進めていて、「この時間内でこれだけの大きな議題を結論までもっていただけるのだろうか」と思うような形で進められていくことがあります。いつも不思議でしょうがないです。フォーラムでは傍聴者の意見を聞く機会が設けられていますし、積極的に傍聴したいと思えます。【傍聴経験者・円卓会議より】

市民公募委員の募集を分かりやすく伝えて

市民委員の公募は、各課がばらばらに行っているのですが、どのような分野で募集があるのかを整理して、市民しんぶんなどに掲載してくれると、関心のある審議会を選びやすいと思います。【市民公募委員アンケートより】

審議を充実させるために

議論を充実させ、実感のあるものにするためにも、審議の対象になる事業やイベント等を委員が実際に見聞きできる機会を作って欲しいと思います。【市民公募委員アンケートより】





私はこう考える！～議論の現場から～

「フォーラム・スタイル」を他の審議会でも！



市民委員を公募するようになって数年が経過した現在でも、まだ形を整えただけのところが多い。市民公募委員の参画している審議会は増加していますが、その影響や効果は、まだ「小石も投げられていない」状態といえます。フォーラムは特殊だとは思いますが、（市民公募委員のための自主勉強会の開催や傍聴者から意見を聞くといった）フォーラムのスタイルを、他の審議会に入れていくべきだと思います。審議会で議論を尽くすためにも、市民公募委員制度を活性化できればいいと思います。【長谷川さん・第2回市政参加・情報提供部会より】

審議会の役割や目標を明確に！



審議会に参画してみて、「これだけのことは貢献したぞ」というはっきりとした結果というものが見えていないことが不満だなと思っていたのですが、同じことを思っておられる市民公募委員が結構多いんだということを、アンケート結果を見ていて感じました。市民参加の市民公募委員の満足度を高めるためには、任期中にどのような成果がでるのかということを最初から伝えておくことが必要なのではないかなと思います。【千葉さん・円卓会議より】

市民公募委員の位置づけを明確に



私は市民公募委員の経験者なので市民公募委員としての気持ちも分かるのですが、市民公募委員に、「審議会においてどのような役割を果たしてもらうのか」ということを明確にしておかないと、会議でどういう発言をしたらいいのかわからないと思います。どうしても市民公募委員は審議会における自分のポジショニングが見えない。一市民としての発言をしないといけいいのか、あるいは自分が持っている専門性を出していいのか、というところがなかなか見えません。そういう状況が作り出す“居心地の悪さ”から、「発言しにくい」というところにつながっているのではないのでしょうか。【大島さん・第12回会議より】

市民公募委員仲間を増やそう



私はまったくの素人でフォーラムに参加しましたが、「私と同じような立場の市民公募委員が他にもおられる」という雰囲気、私を発言させやすくしてきました。審議会によって様々な性格があるので簡単にいくものといかないものがあるとは思いますが、1名や2名しか市民公募委員がいない審議会ならば、せめて4名くらいにするべきではないかと思います。【千葉さん・第12回会議より】

学識経験者も心がけよう



学識の先生方が今まで行政に大切にされてきたということもあって、審議会のような場で中心になりすぎているところがあると思います。市民にとっては我々学識経験者も市民の一員なのだから、謙虚に意見を伺うという姿勢を持たないといけない。私自身も悪い癖だと思って反省していますが、専門家も含めた委員全員の意識が変わらないといけないということも含めて、市民公募委員を受け入れたことをきっかけにして、審議会は変わらないといけないと思います。【宗田さん・第12回会議より】

委員公募の広報について



委員公募の際には、通常のインターネットや広報だけでなく、広報媒体にアクセスしにくい人たちもいることを考えなければいけません。特に、当事者性の強いテーマ（障害者や外国籍住民、子育て支援等）審議会の委員公募の際は、チラシを配布するだけでなく、情報収集も兼ねて、支援団体やNGO、NPOに直接出向いて、審議会の趣旨を説明する広報の方法（アウトリーチ）も必要でしょう。【鈴木さん】

市民公募委員の心がけも大切

委員公募制度は、「市民公募委員に満足してもらう」ことが目的ではありません。審議会に参画した市民公募委員には、京都市民や公益のために審議会に参画して積極的に議論に参加する責任が伴ってきます。市民公募委員も自らの責任を自覚する必要があるといえるでしょう。



ちょっと聞いてよ！～フォーラムに寄せられた市民の声～

遠慮せず発言して欲しい！

市民公募委員の方も遠慮せずに発言をしてもらいたい。もし間違ったことを話していても、座長や他の委員が軌道修正したらいいと思います。【傍聴経験者・円卓会議より】

市民公募委員も努力しよう！

もっと市民公募委員は勉強しないといけないと思います。現場や実態を見て、市民公募委員がもっと専門的な勉強するというのが、発言につながっていくと思います。【市民公募委員・円卓会議より】

市民公募委員は市民の代表

市民公募委員は京都市の政策形成に役立つ意見を求められているわけですから、単に“言いたいことを言う”といった意見では取り上げられないということは常識です。私が以前参加した審議会では、公募委員の出した意見が採用され、それに基づき市の案に修正が加えられました。努力をすれば、十分政策形成に役立ちますし、意見も取り上げてもらえるというのは事実なんです。【市民公募委員・円卓会議より】



努力して発言すれば変えられる

大きな方向性が示されたときに、市民の視点で修正していくことが市民公募委員の役割の一つではないかと私は解しています。他の公募委員の方も勉強をすれば方向性を変えることができると感じています。【市民公募委員・円卓会議より】



私はこう考える！～議論の現場から～

市民感覚の発言も必要



審議会ですから、当然専門家の方が沢山いらっしゃって専門的な見解をおっしゃるわけですが、市民には市民の見方があります。「先生、そういうけどもそれは違うんじゃないか」というような、もっと市民感覚で発言していけば、市民公募委員の役割は果たせるのではないかと私は考えています。【江田さん・円卓会議より】

市民と行政をつなぐ橋渡し役に



まず多くの市民に、市民公募委員というものに興味を持ってもらいたいと思います。専門的な知識はなくても、自分が持っている情報、例えば「自分のご近所の人がいつもこんなことを言っているぞ」といったことを伝えてもらい、「意見のつなぎ役」を担ってもらうことも必要だと思います。【長谷川さん・円卓会議より】

市政参加を通じた仲間づくりを

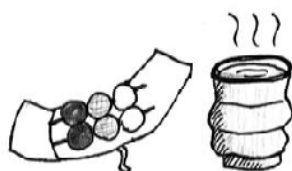


市民公募委員が「自分以外の市民が何を考えているか」ということを踏まえたうえで意見を言っているのかということも重要なポイントです。市民公募委員の役割には、審議会の中で発言するだけではなく、「審議会で聞いたことを市民に向かって発信する」という啓発活動のような大事な役割があると思います。市民自らが行動し、発言をして合意形成を進め、仲間を作っていかなければ、世の中は変わりません。「市民参加で社会そのものを変えていくのだ」というくらいの本格的な取組だということを認識しないといけないと思います。【宗田さん・円卓会議より】

市民公募委員同士が気軽に交流できる場を



円卓会議を通じて、審議会によって運営方法や市民公募委員の参画の仕方等が全然違うということを知りましたし、円卓会議のような交流の場を持てたこと自体が良かったのではないかと思います。更に交流の場への参加が決してノルマではなく、自主的な気持ちで参加できるものだったので、本当に意義のある会議だったと思います。今後もそのような場を設定していければ、市民公募委員制度もよい方向に向かっていくのではないのでしょうか。【竹下さん・第12回会議より】



STEP 3

課題抽出

以上の議論から以下のような課題が抽出されました。

- 審議会によっては市民公募委員が発言しにくい雰囲気のある審議会もある。
- 審議会の運営方法は審議会によって格差がある。
- 市民公募委員に対する審議会や行政のフォローがなされていない場合がある。
- 参画する市民公募委員の側にも、自覚と責任を持つ必要がある。
- 市民公募委員同士の交流の場の創出が必要
- 市民公募委員を受け入れたことをきっかけに、審議会も運営方法等を改める必要がある。

